

## 現代社会学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
<b>学位授与方針</b> (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学、歴史学、経済学、人類学等の専門諸科学の理論と方法に関する幅広い知見を身に付け、そのうちいずれかを援用して、特定の対象や問題関心を追究することができる。そのことで現代社会の広がりに対する感覚と認識を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸現象を、客観的視点から分析、思考することができる。またそのことによって解決すべき課題とその方向性を判断できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸問題に強い関心を持ち、それを解決しようとする高い意欲と倫理的態度を有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科学的に適切な問題意識から、社会的諸問題を自らの視点で論文やレポートにまとめ、論じることができる。あるいはまた、一定程度の現場調査能力・データ分析能力を修得し、上記の問題を実証的に分析し、論文やレポートにまとめ、論じることができる。</li> <li>・現代社会の構造を知るため、その中に自己を位置づけ対象化する能力を持ち、社会と自己の関係を表現する力を備え、それによって他者と討議交流することができる。</li> <li>・日本語及び外国語を運用する能力を持ち、文献・資料を的確かつ批判的に解読することができる。</li> </ul>	
<b>教育課程編成方針</b> (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の仕組みと動向を理解するために、社会学、歴史学、経済学、人類学等専門分野の基礎を学ぶ科目並びに学際的な科目を履修するとともに、広い視野を涵養するために、人文科学と自然科学に関する科目も履修し、幅広い知識と教養を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的思考とともに、客観的な視点に裏打ちされた批判思考を段階的に醸成するため、初年次より少人数による基礎演習を導入し、現代社会への問題関心を養い、基礎的理論と方法を学修する。</li> <li>・3～4年次の演習により、自らの問題意識と専門知識・技法を高められるようにする。また資料・データに基づく判断や討議能力の育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの関心に閉じこもらないように、幅広い関心と現実探究の意欲を喚起することに努める。</li> <li>・すべての科目において、問題解決を主題とする等、身近な事物を対象とする等、関心・意欲を引き出しうる方法で科目運営をするよう心がける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科学的な調査能力とデータ分析能力を獲得する。</li> <li>・専門的な学修に必要な外国語の能力を獲得する。</li> <li>・卒業論文を作成することにより、自らの問題関心に基づいて研究を遂行し、専門的知識・能力の向上を図る。</li> </ul>	
<b>入学者受入方針</b> (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会に対する広範な知識と深い理解を修得していくための基礎的な知識と理解力、及びその適性を考査し選抜する。</li> <li>・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民に関する一定の知識と理解力がある。</li> <li>・日本文と外国語を読み取り、その内容を理解し、まとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状のつきつける課題に向き合い、その持つ意味を思考し、的確に判断することができる。</li> <li>・現代社会が抱える諸課題に対する問題意識を持っている。</li> <li>・論理的な思考能力があり、現代社会の諸問題を複数の視点から考える。</li> <li>・諸問題を構成する様々な立場の当事者性に対して想像力がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界における諸問題に関心を持ち、その解決に向けて多角的に考えている。</li> <li>・身近な出来事と社会全体の動向との関わりの探究に意欲を持っている。</li> <li>・日本及び世界の社会や歴史に関心をもち、それを多角的、総合的に理解・把握したいと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界における諸問題を理解し、分析するために必要な、知識、観察能力、分析能力並びに語学能力がある。</li> <li>・様々な人々と意見を交流させることができる。</li> </ul>	

## 社会福祉学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活上の諸問題、社会福祉の基本的な構造や機能、人間行動や社会システムとの関係性について理解し、社会問題の解決に向けた実践に生かすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々の生活上の諸問題について、社会構造的要因分析の視点を持つことができる。</li> <li>多様な価値観を受け入れ、共生社会を構築するための寛容性を身に付け、そうした社会づくりに向け、他者と協働しながら思考することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会のあらゆる生活問題に関心を持つことができる。</li> <li>人権と社会正義の原理に基づいた援助観を身に付け、行動できる。</li> <li>他者に対する共感的態度を持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者と協働して課題に取り組むことができる。</li> <li>援助者（ソーシャルワーカー）としての基本的技能や価値・倫理を身に付け、実践することができる。</li> </ul>	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉・保健医療・労働関連の制度・政策、社会福祉実践における援助方法に関する科目を置く。</li> <li>1年次には学修の基本的方法を学ぶための基礎演習を置く。</li> <li>3年次以降は専門演習に所属して研究テーマを設定し、その集大成として卒業研究を必修とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会問題に関する歴史的・科学的思考ができる科目を置く。</li> <li>社会問題の背景にある社会構造的課題を理解できる科目を置く。</li> <li>「女工保全科」の伝統を受け継ぎ、働く女性の支援に係わる制度・政策や、労働と福祉を関連づけて理解する科目を置く。</li> <li>多様な社会問題の現状とその課題等について理解できる科目を置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初年次において幅広く学び、興味・関心領域を見極めるための科目を置く。</li> <li>実習関連科目を通して、社会福祉現場実習や就労に対する意識を高めるための科目を置く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉・保健医療・労働・教育等幅広い分野にわたる問題意識を深めるとともに、各専門分野における知識の活用能力を高め、専門職としての価値・倫理を身に付けるための科目を置く。</li> <li>コミュニケーション能力の向上を目的とした援助技術演習科目を置く。</li> <li>大学における学びの集大成として卒業研究に取り組み、口頭及びポスターにより報告を行う。</li> </ul>	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活上の諸問題を理解するための基礎的な知識と理解力を身に付けている。</li> <li>具体的な実践から得られる知と、学問の探求から得られる知、双方の価値を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物事を多面的に考えることができる資質を備えている。</li> <li>社会の諸問題を広い視野で深く考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活上の問題をかかえる人々への社会的支援のあり方に関心を持っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な価値観や自分とは異なる感性を柔軟に受け入れることができる。</li> </ul>	

## 教育学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する哲学、歴史学、社会学、心理学の各理論と方法論を学び、教育学的な知識及び視点を修得している。</li> <li>・教育に関わる事象や問題について、教育学的な視点及び方法論を活用して、分析的かつ統合的に理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関わる事象や諸問題の背景やメカニズムについて教育学的な観点や方法論を用いて分析・考察することができる。</li> <li>・教育実践に関わる諸問題に対して、教育学的知識に基づきながら解決の方向性を探究し、幅広い視野に立って判断を行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の教育問題に専門的な視点からの関心を持つと同時に、真摯に向き合う意欲を有している。</li> <li>・自発的・能動的に学修を進め、生涯にわたり自己を高めて社会に貢献していこうとする意欲や態度を有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が育つ、人を育てるという教育的営みに必要な相互対話的コミュニケーションを行うための技能と表現力を修得している。</li> </ul>	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い基礎知識と視野を修得するために、1～2年次に教育学基礎・教育学基本理論を学ぶ科目群を設置し、一定単位数以上の選択必修とする。</li> <li>・2～3年次を中心に小・中学校の教育学領域、人間形成・生涯学習の教育学領域、国際・地域・政策の教育学領域に対応した専門科目群を設置し、各専門分野の理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学の方法論を学ぶために、1～2年次に「教育学研究法」を演習科目群として設置し必修とする。</li> <li>・設置した3つの領域に応じた専門科目によって、より高い専門性と実践的な立場から、教育の諸問題について思考・洞察する力を身に付ける。</li> <li>・3～4年次の「教育学演習」及び「卒業論文」を必修科目とし、各自の興味・関心に応じて、教育に関する諸問題について深く思考しながら、望ましい教育のあり方について探究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～2年次の教育学基礎・教育学基本理論科目群で、現代の教育に関する諸問題を扱うことにより、比較的早い段階から教育問題に向き合う意欲や態度を形成する。</li> <li>・全学年で「学校インターンシップ」「社会教育インターンシップ」「教育フィールドワーク実践演習」等の教育実践場面で能動的学修を行う科目群を選択必修とし、教育現象の理解や教育実践に対する関心、意欲を高め、態度を形成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協同で行う少人数演習科目を全学年に置き、教育的営みに必要なコミュニケーション能力の素地を育成する。</li> <li>・教育実践場面での能動的学修の科目群によって、多様な他者に対応するための実践的なコミュニケーション能力を修得できるようにする。</li> </ul>	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校までの教育課程における基礎学力が備わっている人。</li> <li>・教育に関する広範な知識の修得と深い理解を達成するために、人間や社会に関する基礎的知識を持っている人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育や社会に関する問題について、資料やデータに基づき論理的に思考できる人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育問題に関心を持つとともに、自ら学び、自己を高めようとする意欲がある人。</li> <li>・教育に関する専門家や実践家をめざしたい人。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分とは異なる他者の意見を理解し受けとめることができ、また相手の理解を得るために自分の考えを表現することをいとわない人。</li> <li>・外国語でコミュニケーションする力を高めようと思う人。</li> </ul>	

## 心理学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・人間の心の働きとその仕組みを広く学び、それらが生物学的、個人的、社会・文化的諸要因の影響を受けていることを理解し、心に関わる現象を実証的な方法で探求していくことができる。	・人間が示す心理学的現象の法則性を論理的に導き、その意味を、調査や実験に基づいて、生物的、社会的な観点から洞察することができる。	・心の働きと仕組みに関する基礎知識を基盤にして、探究を深める意欲を持つとともに、多様な心的機制的解明に関心を広げ社会貢献に生かしていきたいという意欲を有する。	・人間の普遍的な行動現象を解明できる解析能力とともに、多様な状況にある人々に対して、柔軟に対応できる基礎的技法と表現能力を有する。	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	・1年次必修科目に演習科目、実験演習科目を置き、基礎的な心理実験を体験し、解析方法を少人数グループで体験できる仕組みにしている。 ・4年間の学修を集大成する卒業論文を必修とする。	・2年次には実験演習を通じ、心理学の研究法を更に深く体験する科目を置く。3年次の演習(ゼミ)では、専門性の高い学術研究の講読や実習を行い、特定テーマの心理現象の深い理解を促す科目を置く。	・実験演習のレポート作成と添削を受ける、フィードバック経験を通じ、資料の解析と学術的な報告書作成の技能が修得できる設定をしている。 ・3、4年次の演習(ゼミ)科目を通じて、学術論文の正確な理解と、批判的な思考を介して、新たな研究へと発展させていく態度が養成されるよう配慮している。	・公認心理師の取得を希望する者のための科目を置く。また、卒業後、大学院において臨床心理士取得を希望する者のために役立つ科目を置いている。 ・コンピュータを用いた統計的解析法、並びに表現法を学ぶ科目を置いている。社会科学的な調査能力とデータ分析能力を扶育し、社会調査士の資格取得に繋がる科目も置いている。	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・基礎的な書物を通じて心理学の知識を取得できる、基礎学力を有する人。日本語、英語に加え、社会・文化的な背景あるいは生物学的な周辺領域についても関心を持ち、人間の行動を学問融合的に捉えていくことのできる人。	・人間の示す心理現象の成り立ち、原因、そして意味を、実証的な資料の解析に基づいて理解することに興味のある人。	・人間が示す行動の背後にある因果関係に関心をもち、修得した知識をもとに人間理解を深めたいと考える人。更に、専門的な知識と技術を生かして、多様な人間関係の改善に貢献したいと願う人。	・人間の行動特性の普遍性を実証的な資料に基づいて的確に捉え、文章や言葉で正確に伝える能力のある人。自分とは異なる考えも傾聴し、より高いレベルの考察へと修正していくことを望む人。	

## 文化学科

3つの方針	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	その他
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	・自他の文化に関する、その背景知をも含めた、奥行きのある専門的知識と幅広い教養を身に付けている。	・自他の文化の多様性及び相互の関係性について、複眼的・論理的に判断するとともに、創造的に思考することができる。	・多様な文化現象に対して柔軟な理解と共感を示し、常にそれらを学際的な視点から探究しようとする意欲を持っている。	・文化研究を通してえられた認識の成果を論理的にまとめ、国際的な場においても発表することができる言語表現能力を持っている。	
教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)	・語学的知見を深めるとともに、多様な地域・分野の文化に関する広汎な知識を修得するため諸国の社会と文化、言葉と文化等の講義科目を置く。	・特定の地域・分野を超えた広い視野から複眼的に思考し、論理的に判断することによって認識を深めるための多様な国家や文化領域に関する演習科目を置く。	・多様な文化現象に対する知的好奇心を促進し、それらに関する多様な研究方法に関心を抱き、研究意欲を高めるための講義・演習科目を置き、海外研修等を実施する。	・論理的な表現能力を養い、研究成果を口頭発表するための演習科目を置くとともに、論文表現形式の発表としての卒業研究を課し、口頭試問や公開発表会を実施する。	
入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)	・世界の多様な文化を専門的に理解するために必要な外国語及び教養の基礎的な知識を修得している人。	・文化を国際的・学際的な視点から複眼的・論理的に比較考量する思考力を身に付けたい人。	・多様な文化に対する旺盛な知的好奇心と文化理解への意欲を持ち、文化的国際人としての深い教養を身に付けたい人。	・十分な外国語能力を獲得し、自分の考えを論理的に表現する力の向上を目指す人。	